

第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会 第4回会議概要

- | | | |
|---|-----------|---|
| 1 | 会議名 | 第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会第4回会議 |
| 2 | 日時 | 平成29年8月18日(金) 午前9時27分から11時53分まで |
| 3 | 会場 | 安曇野市役所 共用会議室307 |
| 4 | 出席者 | 宮下健司委員長、平田米子副委員長、小林栄子委員、宮下克彦委員、百瀬佳子委員、幅修一委員、上兼裕委員、亀井智泉委員、平倉勝美委員、降旗幸子委員、古川節雄委員、堀金隆雄委員 《事務局出席》 山田教育部長、生涯学習課蓮井課長、堀金、古畑 株式会社KRC |
| 5 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 6 | 傍聴人 | 0人 記者 0人 |
| 7 | 会議概要作成年月日 | 平成29年8月28日 |

会議事項等

○会議の概要

- | | | |
|---|------|--|
| 1 | 開 会 | 蓮井生涯学習課長 |
| 2 | あいさつ | 宮下委員長、山田教育部長 |
| 3 | 会議事項 | (1) 第4回策定委員会の位置づけと第3回策定委員会の振り返り (2) スローガンの検討 (3) 具体的な取り組み内容の検討 《グループ討議》 ①学びの場(学びの対象)について ②市民の主体的な取り組みについて (4) その他 |
| 4 | 閉 会 | 平田副委員長 |

○会議事項

- (1) 第4回策定委員会の位置づけと第3回策定委員会の振り返り(事務局より説明)
- (2) スローガンの検討(事務局より説明)

【委員】 スローガンを見て、年代で切れるのではなく人の一生なのだと思った。生まれてきて、人と出会って、学び合って、学んだことを社会に役立てて、そして次の世代へつないでいく。生涯学習とは人の一生だ、と感じた。とても素晴らしいスローガンだと思う。

【委員】 同じように思った。では、どうしていくか、どういう学習にしていくかというのはこれからの具体的な進め方になるのだが、素晴らしいスローガンができたので、ここでつまづかないように、これに向かって生涯学習が展開されればいいと思う。

【委員】 まさに人の一生、という思いがする。この会議に参加して間もないころ、新聞でとてもショッキングな記事を見た。それは長野県の未成年者が、全国一自殺率が高い、それも飛びぬけて高い、というもの。そういう20歳以下の方も夢はあったとは思うが、その夢さえ追えずに自ら命を、というショッキングなものだった。これを考えるときに、根本的な問題なのではないかと記事を読んで以来ずっと思い続けている。命の大切さ、自分もまわりの人も動植物も含めてすべての命。このスローガンの中にそういうことを盛り込んでいけたら、人間としての一生もより広く考えていけるのではないか。待ったなしの問題だとは思う。

【委員長】 今の24歳以下の若い人たちというのは、親の世代とは未来に対する志向が全然違う。

親の世代は高度経済成長の中で常に右肩上がりのような、そういう世相の中に生きていたが、確かに未来に対する不安感だとか閉塞感というのは、親の世代とはだいぶ違うのではないかと思う。そういうことに対して、命の大切さの側面から含めたらどうかというご意見をいただいた。

【委員】 どんな計画でも同じだと思うが、立派な計画でも絵に描いた餅のような感じになることが多い。一番の根幹の問題だと思うが、社会教育の衰退を感じている。若い子たちが自殺する中には人間関係がうまくいかないというのもあるし、自分の体の悩みということもある。そういうものも社会教育、地域の教育という部分からであり、学校教育の中だけでやれるものではないと思っている。計画の段階でいくらいいものを作っても、どのように各地域で浸透して行われているかということのほうがもっと大事である。この問題にしても計画の段階ではない、実行の段階でやっていくべきだと思う。

【委員長】 計画に基づいて下ろして実践していく、社会教育や生涯学習の担当者の意識の問題だとか、計画に対しての実践の見返しや評価をどうしていくかという課題もある。命の大切さという問題については学校教育だけではなくて地域を踏まえた形でいかに幅の広いものを子どもたちが獲得していくかということも、生涯学習で大事なこと。

【委員】 命の大切さについて。若い世代には未来への希望がない、夢がない、孤立感、などということもある。しかし、24歳以下のスローガンの中には、「夢・未来へ」という言葉が入っており、また「新しい自分や仲間と学びで出会おう」ともある。この辺から、命、生きることの喜び、というものが出てくるのかな、と。先ほどの、命の大切さをスローガンに盛り込むという願いも、いくらかこの中に入っているのではないかという気もする。

【委員】 スローガンの総括的な部分に「ふるさと安曇野をまるごと生涯学習フィールドにして」とあり、とても響きが良くていいと思うが、一方で「フィールド」という言葉はどうかな、とも感じる。これが多くの世代の方にスッと落ちてくるワードなのかという疑問もある。今日このあと協議する「学びの場」という言葉もあるので統一したほうがいいのか、とも考える。フィールドという言葉も響きはいいのでそちらで統一感を出すこともありかと感じる。ただ、幅広い世代に受け入れられる言葉を選んできたいと思う。

【事務局】 今日初めて出した言葉でもあるのでこれで確定ではなく、最終的にはどちらがいいかというのは全体を見て、計画を作る中で、またご意見をいただければと思う。

【委員】 65歳以上のスローガンについて、非常に奥深いものがある素晴らしいものだと思う。一方、市民レベルで自分たちの行動目標という位置づけのスローガンとしたとき、やや説明的かな。「生きることは学ぶこと」という部分については市民レベルからすると教訓的で観念的な響きがあるかな、という印象。直したほうがいいということではないが、これを「学びながら生きる」としたほうがさらっといけるかと思う。その後にある「安曇野人」について、定義からしてもこの言葉は素晴らしいと思うが、前段部分を仮に直したとすると、「次代の安曇野人を育もう」とにしたほうが、他の3つのスローガンの言葉のやわらかさからすると整合性があるのかなと、印象として思った。また細かいところになるが、24歳以下のスローガンについては「学びで」を前へ持ってきて「学びで新しい自分や仲間と出会おう」のほうがいいのか。45～64歳のところも「自らを」という言い方がやや硬いかな、と思うのでこれを「自分を」にするとどうか。ただ、スローガンとして値打ちが変わってしまうかどうか。

【委員長】 言葉というのは、どこに視点を置くかで違ってくる。市民レベルのスローガンとしてこれはどうなのか、という大事なご意見。

【委員】 4つのスローガンの整合性、貫く全体の「ふるさと安曇野…」の部分の言葉の響きもさることながら、説明文、スローガンに込めた想いの部分で、主語が入っているのが一番若い世代のところ。「夢に向かって、安曇野の未来をつくる子供たちが、」の部分。この主語で全てがスタートする。子どもたちが、出会い、学び合い、磨いて社会に役立てるようになっていき、そして次代を育む安曇野人になっていく。「子供たちが」に始まり、全ての世代へつながり、ずっとこの安曇野で学び続けてほしいという想いが最後の世代にある「生きることは学ぶこと」に。生き続けてほしい、学び続けてほしい、といった想いが表現されたスローガン。先程のご意見にもあったように、この場で作って終

わりではなく、これをいかに市民の皆さんと共有していくかということが大切。そういう意味も込めて、貫く大きなスローガンについて、ここに「生涯学習」という言葉を入れればこれでもいいと思うが、もし入れなくていいのであれば、生涯学習という漢字4文字をほどいて、「ふるさと安曇野をまるごと学びの場にして生きる」というように変えると「安曇野市生涯学習」という言葉の、定義というか、ほどいて語ったものになるかと思う。そしてそこに「この土地で生きる」という想いもさらに深掘りできるのかと思う。

(3) 具体的な取り組み内容の検討

①学びの場（学びの対象）について

②市民の主体的な取り組みについて

・ 3班（A・B・C）に分かれ、事務局説明の後①と②についてグループ討議

(4) その他 特になし